YWVOB会 会報 No.31

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

故松本前会長追悼号

http://hw001.gate01.com/hkanoh/index.htm　　2005年12月23日発行

～　３１号の目次　～

・故松本前会長を偲んで・・・・・・・・・・　１
・２００６年度総会報告・・・・・・・・・・１０
・第１４回ＯＢ山行（湯ノ丸山）報告・・・１７
・第１８回シニアＯＢの集い・・・・・・・１９
・自由投稿・・・・・・・・・・・・・・２３
・総会葉書より近況報告・・・・・・２８
・創立５０周年記念事業にむけて・・３２
・２００６年ＯＢ山行予定・・・・・３２

■ 故松本前会長を偲んで

YWVOB 会初代会長の松本正雄氏が 2005 年 11 月 17 日大阪の病院で逝去されました。松本氏は本会を立ち上げ会則を作成し、会報を発刊されるなど長年にわたりご尽力されました。松本氏の長年にわたる貢献と研鑽に感謝を捧げ、哀悼の意を表します。

松本正雄君追悼

嘉納秀明（1 期）

登り詰めると眼下につややかな緑の山並みが広がり、どこまでも続いていた。透明な空気、どんな遠くもはっきりとみえる。「あぁ！ここに松本は住んでいるのか」と思ったら目が覚めた。

乾徳山を背景に

左より　望月　嘉納　田上　松本　石黒　　1957-11-2

松本君と初めて山に登ったのは 1 年生の 10 月丹沢山に出かけた時のことであった。彼はズック靴でリュックの代わりになんと布製のボストンバックという出で立ちであった。塔が岳まで登り、一行は主脈縦走のため丹沢山の方に向かう。私は大学を休めないため、馬鹿尾根を下るのでここで別れた。

この際に私のリュックを松本君に渡し、彼のボストンバックを私が引き受けて下山した。ボストンをぶら下げて林道を歩いてゆくとこれから沢登りに出かけるパーティーに何度も出会った。

そのたびに「なんだこいつ」とい

うようなさげすんだ視線にさらされ、うつむきながら渋沢に急いだことを思い出す。写真は1ヶ月後の11月、乾徳・黒金登山のワンゲル一行である。足元をよく見て下さい。松本君だけまだズック靴である。このとき彼は、今では死語になっている苦学生であった。満州で父を失い、母親と妹とで郷里の四国に引き揚げてきた。大学に入った時、家に負担をかけまいと誓い清水が丘の大学寮に住み、横浜港の沖仲仕を始め、いろいろのアルバイトをやっていた。その彼が翌1958年になると俄然猛烈ワンダラーに変身する。5月に残雪期の奥秩父を縦走、7月に北海道2週間、8月に北アルプス裏銀座縦走を行い、「このまま山に引きこもっていたい」と感じるようになる。

さらに1959年3月にはワンゲル初めての冬山である奥秩父縦走を果たした。この年の夏は立山・剱から槍まで途中大暴風に遇いながらも縦走を完遂した。

北アルプス裏銀座にて　　右端　　松本氏

卒業後は日本テレビに就職した。当時テレビ関係は給与が高く一番の高給取りになった。

その彼の下宿はお茶の水駅近くの、学生寮と全く同様の狭い乱雑なところであったが、そこで研究会と称して一期のOBが集い、私もここに泊まり込んで夜は一緒に近くの風呂屋に出かけ、帰ってはOB会会則を検討し、

一夜明けると彼は会社に、私は大学にということもあった。

彼は1961年から1999年までずっとOB会の会長であった。

スカイライン創立10周年記念号、20周年記念号に巻頭に言葉を残している。OB会報にも会長としての挨拶がある。1989年東丹沢の広沢寺温泉で第一回シニアOBの集いが開かれた。

このときはすこぶる元気で女性軍を前に長広舌をふるい、部屋に連れ戻すのに往生した。

しかしあのころが彼の絶頂期であった。しばらくして妻の節子さんが亡くなった。彼から長文の妻を悼む手紙を貰った。仕事にかまけて妻をないがしろにしたことを悔いていた。せつせつと妻を慕う気持ちが伝わってきた。生前、節子さんは「松本に精気をみんな吸い取られてしまって」と言っていた。確かに当たるところ敵なしの勢いでまくしたてて、まわりにいるものはおたおたする迫力であった。

酒を好みすこぶる強かった。その積年のつけがやがて回ってきた。40才の頃に慢性肝炎で入院したことがあり、酒は慎まなくてはならないはずであった。それが妻を亡くして、コントロールが効かなくなった。世をはかなみ、妻を悲しみ酒量が増えた。逢ってもひところのようにまくし立てることはなくなっていた。またこのころからやたらと太りだした。奥さんのお通夜の日に、この際OB会の会長を代わってくれと言われた。前から時々いわれていたが今回は深刻そうであった。

その場に来ていた他のOBの推薦もあって、私が二代目を継ぐことになった。

1999年新体制のOB会総会が開かれた。この席で会長が正式に交代になり、松本前会長の長年の功績をたたえて感謝状を贈呈した。

表彰状

松本正雄殿

貴殿は１９６１年横浜国立大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会発足以来４０年近くにわたり会長としてその任務を全うされ会の発展に多大な寄与をされました

発足当初の組織作りから会則制定会報の発行月例ワンダリングの開始等着々と会の体制つくりに尽力され今や５００余名の会員を擁する大組織へと発展したのも偏に貴殿の熱意と努力の賜物によるものであります

よってここに永年の功績を賛え、衷心より感謝の意を表し、表彰いたします

１９９９年１１月７日

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会　　会員一同

新会長から前会長へ感謝状の贈呈

記念品は第二の人生の杖

2001 年の 2 月の月例に彼はやって来た。幕山は奥さんと登った山だから追想のためと言うことであったが、体重のために歩きにくそうであった。その時、彼が「これから僕は恋愛するぞ」と言いだした。

節子さんびいきの私としては内心「おいおい」という感じであったが、それは独身者の自由であった。

「お目当てがいるの」と聞くと、大阪の方に誰かいるらしい。「そうか，この年になってもロマンスを忘れずか。引きこもって緩慢な自殺みたいな日々よりははるかによい。」と思うことにした。

はたして、彼の結婚の挨拶状が来た。

長年住んだ伊勢原の家は子供に譲り、新生活を南大阪のマンションで始めると言うことであった。新婦とは満州墓参の旅行で知り合った人であった。

ところが 2003 年の夏になると大阪の田上さんや佐藤さんから電話が入り、彼が入院し意識混濁して重篤になっているというのである。

私はすぐに大阪に向かった。田上さんと病室に行ったが、私たちに気が付いているのかどうなのか、うつろな目をまっすぐに向けているだけで何も言わない。奥さんが来られてものを言いかけると何か言葉にならない音を発したが、奥さんにはそれが何であるか分かったようである。

結局、私を認識してくれたのかどうかも分からぬまま帰途についた。

思ったよりことは重大であると感じて帰宅後すぐ在京の一期の人たちに病状を伝えた。
秋になると容態はやや回復して意識も戻ったというが、これが話をする最後のチャンスになるかもしれないからと思い、吉田光さんや桑原さんとお見舞に大阪に行った。
その日は松本君の調子は良く、あの何も言わない状態からこんなに回復したのかと喜んだ。皆で屋上に出た。秋の空気がさわやかで花が沢山咲き乱れていた。そこで写真を撮った。
そのとき彼は「俺は良い友達を持った。」と私にささやいた。「それと良い奥さんを持った。」と、私は返事をした。
帰宅後、彼から手紙が来た。紙の真ん中にふるえるか細い字で来てくれてありがとうと礼が書いてあった。これが彼からもらう最後の手紙になることはすぐ分かった。必死にすがるように書いていることが感じられて切なかった。それでも彼は後の 1 年を持ちこたえた。
本年 11 月はじめ田上さんから連絡が入る。いよいよそのときが来たという。
すぐに大阪に行きたかったが学科審査があり、この大学に来てから初めての土日の休日出勤での準備とその後の審査出席というどうにもならない日程であった。
やっとこの仕事が終わった 17 日の早朝に亡くなったという知らせがあった。

葬儀はまたシニアOBの集いとかぶっていた。 シニアOBの集いの会の冒頭に参加者全員で黙祷を捧げた。翌日、棒の折山に登る山里に思いがけなく桜の花が咲いていた。ひそかにこれを彼に捧げることにした。

「 在りし日の空おもわする山里に君にたむけん冬桜咲く 」

ご冥福を祈る。

松本氏を悼む

望月元雄（1 期）

松本正雄君のご冥福を心からお祈りいたします。この写真は 1958 年 8 月 14 日から 20 日まで北アルプス裏銀座コースへ行ったときのもので、たぶん、烏帽子岳付近で撮ったものです。

左から　望月元雄、松本正雄、河野哲，田川栄一(リーダー)　撮影者　石黒輝康

濁り沢から登り、野口五郎岳、鷲羽岳、三俣蓮華岳、槍ヶ岳から上高知に至る 4 泊 5 日の行程でした。下は河童橋で私と二人で記念撮影です。この時の松ちゃんはスマートでした。
ワンゲル第一期経済学部のメンバーは、将来は世に羽ばたく鷽になろうなどと大それた志を持ったものが集まり、ザックバランにやろうと八鷽会などと言っていました。一番ザックバランだったのが松ちゃんでした。愛媛県出身の松ちゃんは黒澤ゼミに入り、4 年間を富士見寮で過ごしました。夜は横浜港で徹夜のウオッチマン、朝帰りして一寝入り、昼に起き出してまず煙草一服、それから食堂でうどん一杯で腹ごしらえをして講

義に出るという生活で、アルバイトで自活しながら勉学とワンゲルを両立させるのはかなり厳しいものでしたが、持味の豪快な性格で苦労を吹き飛ばしワンゲル活動を一番エンジョイしたようでした。

松ちゃんはよく言ってました。「ワンゲルで山に行けば３食ちゃと食える。」

午前中は教室で顔を合わせることはほとんどなく、午後にワンゲルの部室に行けば彼に会え、そこで中国語で「草原情歌」を教えてもらったものです。そんな時期もありました。

右から松本正雄　望月元雄

時には寮の池の金魚に目をつけ、つり上げて洗面器でみそ汁にして食べたこともありました。もちろん事前に図書館で「金魚はコイ科に属するこれは食べられる。」と調べていたのはさすがに松ちゃんです。寮生で池の金魚を食べちゃったのは彼だけだったでしょう。

ラジュウスを使って部屋で煮炊きするのですが、うっかりラジュウスを倒して危うく火事にするという失敗もありました。シュラフをかけて消し止めたのですが、シュラフは窓の外で３日ほどくすぶったという武勇伝もありました。

松ちゃんは日本テレビに就職し、会社の食堂で３食保証されるようになり、すぐに20キロも太ってしまいました。朝昼晩会社で食べられるのでテレビ会社を選んだのかな。それでも水道橋の下宿には冷蔵庫が置いてありました。８ミリ映画の格好のスクリーンとなったのですが、「冷蔵庫の中身が腐るぞ。」と冷やかしても「中にはビールしか入ってないよ。」と豪快に笑っていたっけ。

社会人になってから時折女性同伴のパーティーをやりました。今はやりの合コンの走りでしょうか。皆その時の同伴の女性と添い遂げています。ワンゲル女性部員から「アカツキの君」と親しまれた松ちゃんもワンゲル一期生の磯崎節子さんと結婚したのでした。

後列　左より　新川丈夫　佐藤文雄　田上栄一　河野　哲

前列　左より　望月元雄　吉田光志　松本正雄　桑原忠雄

この写真は2002年７月の退職記念の会のときのものです。その後盛り上がって２次会、３次会と繰り出したのですが、さてお開きになってから、松ちゃんが大騒ぎ。２次会で着せ間違えられたと深夜２次会場まで取り戻しに行ったこともありました。最後まで松ちゃんらしさは変わりません

でした。　　合掌

松本の大阪での生活（闘病生活）

田上　栄一（1 期）

平成 14 年の秋に松本と会い、私が今年で退職し神戸に帰ると話した。その時、松本は、「俺も再婚し来年春に大阪に転居する」と話した。「松ちゃん、それは良かった、このまま一人での生活を続けていると身体を壊すからな。それじゃあ来春大阪で会おう、そしてハイキングにでも行こう」と別れた。

平成 15 年 5 月中旬に、松本より大阪への転居通知を兼ね再婚したという挨拶状をもらう。7 月上旬に神戸の三宮で松本と私と女房との三人で会食する。その時顔色が悪いので（黄疸が出ていた）体調を聞いたら、「肝臓が少し悪いんだ」と話した。「肝臓は良くならないから気をつけろよ」と忠告した。

それ以来平成 15 年は検査入院の繰り返し、16 年 3 月以降はほとんど入院生活であった。松本の大阪へ来てからの生活を奥さんの話を主体に、私なりにまとめてみた。

① 平成 15 年 5 月～12 月　検査入院の繰り返し（生活は従来どおりも頻繁に病状検査）

・5 月 8 日　大阪へ転居、旧姓岩倉好子さんと再婚（モンゴルへの墓参の会で知り合う）。松ちゃんの手がふるえるので　奥さんはアルコール中毒と思い、6 月 11 日阪和総合病院に連れて行く。その時伊勢原で 3 年前よりかかっていた病院の診断書（申し送り）を提出する。

・6 月 19 日　肝硬変の末期と診断される。腎臓もかなり悪い（透析できる状況でない）3 年前よりアルコールによる肝硬変。このままの生活を続けると余命 3 ヶ月といわれた。伊勢原でのことは奥さんに全く知らされていなかった。7 月下旬検査入院。

・8 月中旬　1 週間畑の草刈に、新居浜に行く（体調良くなく、ほとんど出来ず）。

・8 月 21 日から 3 週間入院。9 月 5 日に私、6 日に佐藤さんが見舞に行く。

・10 月初旬　松本夫妻と奥さんの親戚のご夫婦で長野に旅行計画。ところが旅行の前日に、松本の踵のたこがみっともないと（痛くもないのに）、外科へ行き手術する。
旅行当日、足が痛くて歩けず、旅行キャンセル。旅行どうだったと聞いたときの答え。
笑うに笑えず、怒るに怒れず。

・10 月中旬から検査通院。11 月下旬に約 2 週間、新居浜へ行く。12 月初旬腎臓の検査。12 月 10 日から 1 週間伊勢原に行く。

・12 月 17 日　胃カメラで静脈瘤が見つかる。

② 平成 16 年 1 月 5 日～11 月 25 日　第一次入院生活

・1 月 5 日入院　静脈瘤をカテーテル治療　麻酔でボケがでる　2 月 10 日退院、
点滴等のため通院　入院の部屋空き待ち。

・3 月 25 日入院（11 月 25 日迄の長期入院となる）。4 月 6 日見舞に行く、腹水がたまり、足も少しむくむ。その後食道に静脈瘤見つかり治療する、かなりひどいボケがでる。
7 月に見舞に行くと寝たきりで私のこと分からず。この間、伊勢原の証券会社に預けていた金銭類が、本人確認できないという理由で引き出せなくなりひと悶着あり。
佐藤さんも尽力される。

・8 月 21 日　嘉納さんが見舞に来る。ボケは 7 月より幾分良くなっていたが、自分のことが本当にかってくれているのかなと心配して帰る。その後徐々に回復する。

・10 月 6 日　嘉納、桑原、吉田、の 3 氏見舞に来る　佐藤氏と私と松ちゃんの 6 人で
話がはずむ。奥さんを入れ 7 人で屋上に出て写真を撮る。

・10 月　肝臓に癌が数個みつかる。治療は来年。
・11 月 25 日　退院。正月は自宅で過ごす予定。12 月に見舞いに行く　久しぶりの自宅生活なので嬉しそうであり、トイレも 1 人で行き元気になったように見えた。

後列　　佐藤　田上　吉田光　嘉納　桑原
前列　　松本夫妻

③　平成 17 年 1 月 4 日～11 月 17 日　第二次入院生活
・1 月 4 日　入院。　癌を固める治療を始める。今度はボケがほとんど出ず。
・24 時間点滴の状態になる。腹水も溜まりだし 2 週間に 1 回腹水を抜く。
・4 月見舞いに行ったとき、松ちゃんを車椅子のせ、奥さんと 3 人で近くの公園に花見に行く。その後週 2 回腹水を抜くようになる。
・6 月に嘉納さんが見舞に来る。
・腹水を抜く回数が週 2 回になる。10 月は抜いた後の体重 60ｋｇと安定
・11 月に入り微熱がでる。　腎臓にこれ以上負担かけられないため、腹水を抜くのは週 1 回になる　体重も 70ｋｇ台となる　お腹ぱんぱんであった。
・11 日　容態悪化　小便の出が非常に悪くなり、呼吸も苦しくなり、酸素吸入。
・13 日　河野さん見舞に来る。容態小康状況　話はできた。
・15 日　容態更に悪化　肺に水がたまり、集中治療室に移る。
・16 日　見舞う。　口より管を入れ腹水を抜いていた　精一杯の呼吸。
・17 日　早朝逝去。

酒の飲みすぎによる肝硬変であった。伊勢原での 1 人での生活でいろいろな面があったかもしれないが、もう少し自重していればと残念である。しかし大阪に来て最初の診断で、肝硬変の末期で、このままの生活を続ければ余命 3 ヶ月といわれたことを考えれば、よく頑張ったと思う。

これも奥さん看病のおかげである。3年前から肝臓を悪くしていたことを松本から知らされてなく、一緒になった2年6ヶ月は看病の結婚生活であった。奥さんは入院中は毎日看病に行かれ、松本も頼りきりであった。松本も好子さんとのもっと楽しい生活を考えていたはずであり、又お母さんが存命でおられること思うと無念ではないかと思う。

しかし、妹さんも新居浜から何回も来られたし、小学校から高校まで一緒だった親友の松浦先生（医者）も京都から足繁く来られたし、ワンゲルの仲間も来てくれたし、親戚の方、知人、友人もかなり見舞いに来られた。そして最後は奥さん、息子さん、妹さんに看取られて亡くなったことは幸せではないかと思う。折角大阪に来たのだから、ワンゲル仲間と一緒にハイキングにと思っていたが、今は只、松ちゃんのご冥福をお祈りするだけである。

松本前会長を偲んで（OB会創設のころ）

吉野大次郎（2期）

1961年（昭和36年）3月、ワンゲル第1期生が卒業しYWVOB会が誕生しました。
初代会長は松本正雄さん（通称松チャン）です。OB会といっても1期生だけの10名程度ですから、会としての組織整備やきちんとした活動は行っていなかったと思われます。

1期生はOBとなり皆就職したわけですが、京浜地区在住の望月さん、河野さん、小野さん、桑原さん（テニス部兼）、新川さん（テニス部）たちは、神田三崎町にあった、あまりきれいとはいえない松本さんの下宿にしばしば集まり、ワンゲルのことや、OB会のことをいろいろ話し合っていたようです。

翌1962年（昭和37年）、私たち2期生が卒業しました。松本さんたちに再び後輩ができたのです。私も早速松本さんの下宿に呼ばれました。おしゃべりをしたり、たまには山やスキーに行きました。

その下宿での集まりの中から、初版 OB 会則が生まれました。松本会長のリードで、その年（1962年）9月に草稿が完成し、11月の総会で承認されました。

初版会則はわずか25条の短い内容ですが、その根幹となるところ、即ち目的、事業内容、会員、役員、幹事会、地方支部、会費等は40年後の現在にも脈々と受け継がれておりますので、時代は移れど基本は変わらないものだとつくづく感じます。

また、松本会長は会則の草稿ができた1962年9月に、「OB会報第0号」を発刊しております。第0号の意味はその紙面に載っております。1枚2ページものですが、全文松本会長の筆になるものです。この中で松本会長は「OB会の活動の第1歩として会報を発刊し、また秋総会に会則を確立しよう」と呼びかけております。

その後数年、松本会長はOB会報を通じて毎回のようにOB会の活性化を訴えております。まず集まろう、そして会報、名簿を発行しよう、ワンダリングをしよう、会則を整備しよう、総会を活性化しよう、会費を納めよう等々であります。

その後、毎年会員が増え、1965年には第1次月例ワンダリングの発足、1968年には苗名小屋建設とOB会は大きく発展を遂げました。

そして、1999年、嘉納現会長にバトンタッチするまで、実に38年の長きにわたり会長職を全うされました。私たちはその功を盾に刻み、総会の席で表彰を行い長年の労に感謝の意を表した次第です。

松本会長は茫洋としてとして迫らず、いつもニコニコ、いなかの秀才によくある肩ひじ張ったところは微塵もなく、親しみやすい大人物でした。見た目とは違い、細かいことにもよく気がつく方でして、下で働く私たちはとても仕事がやりやすかったものです。

会にとってはかけがえのない先駆者を失ったわけですが、私たちは大先輩の偉業を引き継ぎ、YWVOB

会をますます発展させるよう努力することを誓います。安らかにお眠り下さい。

松本前会長の発刊した会報第０号（表）

（仮名）　O・B　会報　　第　0　号

（仮名）

O B 会 報

第零号

横浜国立大学
ワンダフォーゲル部
O・B会発行
1962・9・20

―発刊のことば―

O.B会発足以来、一年数ヵ月、はじめの一年は会費の全てを部に寄附し目立った活動はなかった。その後も会長の入院など沈黙が続いたわけである。しかし最近会の活動に関する会合が在京会員によってなされ、O.B会は独自の活動をすべきであると云うことから、O.B会の会誌をつくり、部誌にのみ依存せず、連絡、意見の交換を行なおう、又経済的にもO.B会費を全部寄附する様な変則をやめ、活動費としてO.B会の運営のために使える様にしようと云うことになった。折しも七月十四日に夏合宿研究会があり、出席したO.B数名と現役との話し合いが行なわれて、O.B会費は全部O.B会に帰することが確認された。

そこでO.B会の活動の第一歩として会報を発刊し、又秋総会に会則を確立しようと云うことになり、とりあえず零号誌を発刊し、会則案と共にO.B諸君の会に対する意向を問うものである。

会則案の問題点

会長　松本正雄

本会の会則は、ほぼ一年前に発会と同時に配布されたのであるが正式に採択されたものでなく、この際将来の礎に先に在京幹事の一部と相談の結果を別紙とし新たに配布するから、意見その他の有る者は書面などによりお知らせ願えれば幸甚に思う。その上で大学祭の総会の席上採決にこぎつけたいと思う。

何の会にしろ会則はその会の本質その他を端的に表わすのであるが、本会は一言で云えば卒業後も尚以前ガッチリ組んだスクラムを忘れず山行その他を共にし、連絡を密にし併せて現役部の援助等をやることに目的がある、単に唱ってある、単にかつてのサークルへの寄附団体でないことに留意して貰いたい。

こゝに会報発刊の意義も生れる。

第二に構成要員であるが、ワンゲル出身といえども四年間みっちり鍛えたものもあれば又二、三年の者もあり様々であるが、強制的に全員卒業と同時に入会の制度をとらないで本人の意志とワンゲルが認めたワンゲル学士号を授与され卒業をした者であることが、出身校友有志の意味であることに留意されたい。

次いで組織については原則として連絡委員会には幹事出席だが、

■ ２００６年度ＯＢ総会報告

副幹事長　小野恵美子（34 期）

2006 年度の OB 総会は、常盤祭の開催中に学内の教室で開催されました。部室を思わせる狭い一室で机も椅子も足りない状況でしたが、予定よりも多くの方々がご出席くださいました。ワンゲルの原点のような環境の中、充実した総会となりました。

〔日　程〕2005 年 11 月 5 日（土）　14:00～17:00
〔会　場〕横浜国立大学　教育棟 7-308
〔出席者〕嘉納[1]、吉野[2]、井上[3]、渡辺[3]、谷上[4]、原[6]、松本[7]、松本[8]、鈴木[9]、下村[10]、
安藤[11]、榎本[12]、池谷[16]、植松[16]、横溝[21]、笹倉[30]、小野[34]、田村[34]、後藤[39]、
覚田[40]、石川[41]、肥塚[46]、井上[47]、安田[48]　　（OB　21 名、現役　3 名、計 24）

〔総会議事〕

1. 会長挨拶（嘉納会長）

ご出席ありがとうございます。会場の環境が悪く申し訳ありません。

2006 年度は 2007 年の YWV 創立 50 周年に向かう大事な年です。記念事業として既にホームページの作成を進めています。現役は人数確保が難しい状況が続いており、部員数が 10 人以下になると部室を取り上げられるとの話も出ています。また OB 役員会も活動がうまく進まない状態ですが、50 周年を祝い今後も活動が継

続するよう、皆様のご協力をお願いいたします。

2. 出席者自己紹介、議長・書記選出、定足数確認

- 議長：田村（34 期）、書記：小野（34 期）
- 定足数確認時点での出席会員 19 名、委任会員 110 名（総計 35 期）をもって本総会は成立。

3. 2005 年度 OB 会活動報告

① 役員会（田村副幹事長）

7/24 と 8/28 の 2 回開催した。役員多忙につき開催回数が少なくなってしまったが、 50 周年事業について話し合いをしている。

② 総務委員会（田村副幹事長）

名簿の管理と発行を実施。行方不明会員について、尋ね人欄を会報に 2 回載せ、成果を上げた。

③ 編集委員会（田村編集委員長）

予定より遅れてしまったが、会報 28 号（2/20）、29 号（7/15）、30 号（9/10）を発行した。

④ OB 山行委員会（小野 OB 山行委員長）

越前岳（12/4、参加者 11 名）、鷹ノ巣山（5/21、12 名）、湯ノ丸山（10/1、16 名）と計画通り 3 回開催した。各回の担当幹事制度は実施できなかった。

⑤ 山小屋委員会（後藤山小屋委員長）

例年どおり雪下ろしと R2005 を実施し、メンテナンスを行った。有志によりソーラーシステムを取り付け利便性が上がっている。

4. 会計報告（吉野会計幹事）

- 今年度より会費未納者には会報送付をせず部数を減らしたことと、郵送からクロネコ便にしたことで、支出が削減された。

2005年度一般会計予算実績　　(2004.10.1～2005.9.30)

前期繰越	1,385,094	1,385,094

収入

項目	予算	実績	差額
年会費	100,000	178,000	78,000
前納会費	300,000	318,333	18,333
一般寄付金	100,000	148,250	48,250
小屋寄付金	150,000	193,250	43,250
総会参加費	150,000	103,000	-47,000
山行参加費	20,000	10,700	-9,300
名簿郵送関連	10,000	11,000	1,000
その他収入	0	92	92
計	830,000	962,625	132,625

(前納会費繰延分 1,710,000/6　＝　285,000)
(前納会費当年度　200､000/6　＝　33,333)
(前納会費計　318,333)

支出

項目	予算	実績	差額
会報作成・発行費（3回	330,000	315,150	-14,850
小屋会計振替	150,000	193,250	43,250
総会費用	170,000	107,680	-62,320
山行費用	30,000	29,852	-148
幹事会・委員会会場費	30,000	729	-29,271
名簿郵送費	10,000	25,472	15,472
関西支部補助	6,000	10,200	4,200
50周年積立金	100,000	100,000	0
その他支出（予備費）		2,350	2,350
計	826,000	784,683	-41,317
当期収支	4,000	177,942	173,942
次期繰越	1,389,094	1,563,036	173,942

(前納会費繰延分　740,000　740,000)
(前納会費・当年度分繰　100,000　236,667)

帳簿残

次期繰越	1,563,036
前納会費繰延	976,667
50周年積立金	100,000
前受金	447,000
計	3,086,703

現金・預金残

現金	0
振替口座	475,957
総合通帳	2,610,746
計	3,086,703

2005年度OB小屋会計実績報告

会計期間	2004.10.1～2005.9.30

前期繰越金(2004.10.1)	1,338,945	①

2005年度収支計算書

収入			支出		
OB会計より振替 ・小屋寄付金	193,250		除雪作業補助	62,135	
			小屋整備修繕(R2004・DIY・他)	139,869	
			小屋トイレ修繕(OB小屋会計負担分)	300,000	
預金口座利子	44		小屋地代	10,000	
			振込手数料	520	
太陽光パネル・蓄電バッテリー	81,499		太陽光パネル・蓄電バッテリー	81,499	
OB小屋会計収入合計	274,793	②	OB小屋会計支出合計	594,023	③
＊トイレ修理代立替金返済	0	④	＊トイレ修理代立替金	150,000	⑤
当期収支(②-③)	-319,230				

現預金(①+②-③＋④－⑤)	869,715	⑥
トイレ修理代立替金⑤-④	150,000	⑦
次期繰越金(2005.9.30)(⑥+⑦)	1,019,715	

帳簿残(2005.9.30)	
次期繰越金	1,019,715
未払金	71,330
計	1,091,045

現金・預金残高(2005.9.30)	
現金	60,474
普通口座	880,571
貸付残高	150,000
計	1,091,045

5. 監査報告（八島監査役　欠席のため文書により）

・ 一般会計、小屋会計の報告書について監査した結果、特に問題無し。

【承認】　以上の報告事項について、満場一致で承認された。

6. 役員改選

・ 今年は多くの役員が任期満了し、改選を迎えた。

・ 改選された主な役員は

幹事長・・・・・藤井謙一郎氏（33）から石川　真氏（41）へ

副幹事長・・・・田村　顕洋氏（34）から小野恵美子氏（34、山行委員長兼務）へ

総務委員長・・・笠原　正大氏（41）から覚田　陽一氏（40）へ、笠原氏は総務副委員長に

編集委員長・・・田村　顕洋氏（34）から下村　蓉子氏（10）へ、田村氏は総務委員に

役員体制　〔★･･･05.10.1 新任、　☆･･･05.10.1 再任、　■･･･03.10.1 就任、□･･･04.10.1 就任〕

会　長	嘉納秀明（1）☆	総務委員長	覚田陽一（40）★
関西支部	渡辺亨英（3）☆	総務副委員長	松本弘道（7）□ 笠原正大（41）★
幹事長	石川　真（41）★	総務委員	横溝真司（21）■ 影井康弘（34）☆ 田村顕洋（34）★ 渡邉隆史（36）☆
副幹事長	小野恵美子（34）★		
会計幹事	吉野大次郎（2）■		
顧問	菅谷光雄（6）☆　池原盛彦（8）☆	編集委員長	下村蓉子（10）★
山行委員長	小野恵美子（34）☆	編集委員	松本真理子（8）★
関西支部幹事	斉藤貞夫（４）■	監査役	八島　明（7）■
小屋委員長	後藤誠史（39）☆		
小屋委員	郡司直樹（4）☆　諸角壮弌（5）☆　菅谷光雄（6）☆　池原盛彦（8）☆ 小口雄平（14）☆　鈴木道夫（14）☆笹倉実（30）☆　安本健一（30）☆ 田中義人（34）■　親跡冬樹（34）☆　村山浩樹（34）☆　志賀　圭（44）★（会計担当）		
５０周年事業推進役	嘉納秀明（1）□		

【承認】　以上の新任役員、再任役員について、特別決議・決議共に満場一致で承認された。

7.　50 周年記念事業計画（記念事業推進役：嘉納会長）

〈記念事業の趣旨〉

YWV は 1957（昭和 32）年 4 月に創設された。1968 年には 10 周年記念事業として苗名小屋が完成した。現在 OB は 500 名を越え、今なお活発に活動している。

2007 年には 50 周年を迎える。これを期に過去の活動の集大成を行い今後の展望を開くために記念事業を行うことが前総会で決定された。内容は記念誌の発行、式典開催、記念登山、記念ホームページ開設等が考えられ、多くの人の協力が必要になる。まず、創立 50 周年記念事業準備委員会をつくり、委員を募りたい。委員会を中心に内容を決定し事業を進めていく。基本的には現在の役員および各期幹事に委員就任をお願いし、さらに広く事業準備への参加を呼びかけたい。

・ 部史編纂事業

公式ワンダリング、山小屋活動、部会議、遭難問題、OB 会活動、各会員の自分史等バラバラに存在する記録を一つに纏める。

・ ホームページの開設

前項の記録を全会員に公開する手段として考え、現在試行開設中（HP アドレスは会報 30 号及び今号表紙でお知らせしている）。プライバシーの侵害等のセキュリティーのため OB 会員に

のみアドレスを知らせる。(現役部員にも知らせていない。) 写真に途中退部者も写っているが、会員内のみの公開であれば問題無いと見なす。

50 周年記念の HP と通常の PR 活動としての HP とは別のものとして考えるべき。

現状は前者の作成に尽力し、後者については追々検討する。

・ その他

当総会中に、50 周年記念として会費未納者の過去の会費を帳消しにしたら活動に参加する会員が増えるのではないか、との意見が出たが、元々過去の会費については遡って請求していないので採用できない。

・ 50 周年記念事業準備委員の選出

委員長　井上肇（3）

委員　嘉納秀明（1）、吉野大次郎（2）、江崎伴雄（3）、吉村元孝（3）、大黒美代子（4）、郡司直樹（4）、谷上俊三（4）、日渡松男（9）、安藤貞利（11）、榎本吉夫（12）、山川隆（12）、中島一夫（15）、池谷文明（16）、植松弘（16）、小野恵美子（34）、覚田陽一（40）、塩野貴之（46）、安田遥（48）

※　委員（各期委員）は委員会で選ぶ。

※　HP 担当への振り分けは委員会内で決める。

【承認】　以上の実行委員の就任と事業の進め方について、満場一致で承認された。

8.　2006 年度 OB 会活動計画

①　総務委員会

定期的に役員会を開催する。2007 年度 OB 総会を開催する。名簿管理・発行をする。

②　編集委員会

会報 31 号（総会報告含む）、32 号、33 号（総会案内含む）を発行する。

③　OB 山行委員会

第 15 回大菩薩嶺山行（12/10）、16 回（5 月）、17 回（9 月）を予定している。

担当幹事制度は止め、16・17 回についても予めコースと日程を決め、31 号会報でお知らせする予定。

④　小屋委員会

雪下ろし、R2006 を実施する。メンテナンスを中心に行い余力があれば改善に取り組んでいく。

9.　2006 年度会計予算案

・ 予算は余裕をもって組んでいる。

・ 会報の尋ね人・未納者リスト効果で会費未納者が 25 名減り、収入が増えている。

・ 小屋会計については、収入は無しで残高をつぶす形で組んでいる。

【承認】　以上の報告事項について、満場一致で承認された。

2006年度一般会計予算　　(2005.10.1～2006.9.30)

	(05年度実績)	(06年度予算)
前期繰越	1,385,094	1,563,036

収入

費目	05年度実績	06年度予算	差額
年会費	178,000	150,000	-28,000
前納会費	318,333	340,000	21,667
一般寄付金	148,250	200,000	51,750
小屋寄付金	193,250		-193,250
総会参加費	103,000		-103,000
山行参加費	10,700	20,000	9,300
名簿郵送関連	11,000	10,000	-1,000
その他収入	92	0	-92
計	962,625	720,000	-242,625

(前納会費繰延分　1,910,000/6　＝　318,333)
(同当年度分　130、000/6　＝　21,667)
(前納会費計　340,000)

前納会費繰越分　976,667
収入　318,333
次期繰越　658,334

06年度前納会費予算

入金	170,000
うち当年度	130,000
次年度以降分	40,000
当年度収入	21,667
次年度へ繰越	148,333

支出

費目	05年度実績	06年度予算	差額
会報作成・発行費(3	315,150	330,000	14,850
小屋会計振替	193,250		-193,250
総会費用	107,680	10,000	-97,680
山行費用	29,852	30,000	148
幹事会・委員会会場	729	30,000	29,271
名簿郵送費	25,472	10,000	-15,472
関西支部補助	10,200	10,000	-200
50周年積立金	100,000	100,000	0
その他支出(予備費)	2,350	5,000	2,650
計	784,683	525,000	-259,683
当期収支	177,942	195,000	17,058
次期繰越	1,563,036	1,758,036	195,000

(前納会費繰延分　740,000　658,334)
(前納会費・当年度分　236,667　148,333)
(前納会費繰延・計　976,667　806,667)

次期繰越

次期繰越	1,758,036
前納会費繰延	806,667
50周年積立金	200,000
計	2,764,703

2006年度OB小屋会計予算　　会計期間　2005.10.1～2006.9.30

前期繰越金(2005.10.1)	1,019,715	①

2006年度収支計算書

収入			支出		
OB会計より振替			除雪作業補助	90,000	
・小屋寄付金	0				
			小屋整備修繕(R2005・DIY・他)	190,000	
預金口座利子	0				
			小屋地代	0	
			振込手数料	1,000	
OB小屋会計収入合計	0	②	OB小屋会計支出合計	281,000	③
＊トイレ修理代立替金返済	50,000	④	＊トイレ修理代立替金	150,000	⑤
当期収支(②-③)	-281,000				

次期繰越金(06.9.30)

現預金(①+②-③+④－⑤)	638,715
トイレ修理代立替金⑤-④	100,000
計	738,715

10.　新会員の承認

・　22 期　成島和仁さん（途中退部だったが OB 会に入会希望あり。）
・　46 期　アンディ　カラギッツさん（現役卒業、但し連絡が取れておらず後で希望確認）

【承認】　上記 2 名の方が満場一致で新会員として承認された。

11.　関西支部活動報告（渡辺関西支部長）

関西支部は現在正会員 26 名、うち 17 名が会費を納めており、少しずつ増えている。
毎年 1 回の山行と 4 回程度の PW を行っており、来年も 3 回予定している。
関西支部としても HP をつくりたいが、写真をどう出すか検討中である。

12.　現役活動報告（井上主将）

現在の部員は 46 期 3 名、47 期 2 名、48 期 2 名、49 期 6 名。部のかけもち等で全員が集まることは少ないが、山行は良く実施している。今年は大菩薩、甲斐駒、尾瀬、丹沢等で行った。夏は北海道（旭岳～トムラウシ）で合宿を行った。

以上をもって 2006 年度 OB 総会は終了した。

****

速報！　第 15 回 OB 山行：大菩薩嶺　　05.12.10
（詳細報告は次号）

■ 第１４回ＯＢ山行（湯ノ丸山）の報告

OB 山行委員長　小野恵美子（34 期）

〔日　程〕2005 年 10 月 1 日（土）
〔参加者〕宮崎[2]、吉野[2]、渡辺[2]、金田[3]、谷上[4]、原[4]、松本(弘)[7]、松本(真)[8]、安藤[11]、榎本[12]、小口[14]、小浜[17]、小浜夫人・令嬢、白須[17]、小野[34]
（計 16 名・敬称略・[　]内数字は期）

紅葉の時期には少し早かったのですが、去る 10 月 1 日湯の丸山と烏帽子岳に登ってまいりました。雲が多かったけれどもまずまずのお天気（このところ OB 山行は雨無しです！）。遠くの山まで望め、落ち着いた初秋の山歩きを楽しんできました。

朝 9 時半に佐久平駅で電車組みと合流し、マイカー組みの待ち合わせ場所地蔵峠へ。新幹線を使って日帰り登山とは何とも贅沢です。地蔵峠に上っていく道端には小さな石の観音様が何体も並んでいます。峠を越えて鹿沢温泉まで百体あるそうです。看板が無ければ見落としてしまうほどひっそりと立っており、とても和やかな気持ちになります。

10 時半に地蔵峠に集合としていましたが、小浜さんご一家と白須さんを乗せた車が渋滞にはまってしまったとのこと。行楽シーズンの週末はやはり要注意です。先に出発することにして、11 時、馬頭観音様に見送られて歩き始めました。牛たちがのどかに草を食むゲレンデの道は急登。振り返ると篭ノ登山が大きく見えます。そこを過ぎると静かな山道です。花の季節は素晴らしいだろうと想像しながらつつじ平を越え、遭難慰霊の鐘を過ぎると再び登りです。ここで小浜さん、白須さんが追いつきました。奥様と娘さんは後からゆっくりいらっしゃるとのこと。

景色を楽しみながら登り続けて 12 時 10 分湯ノ丸山山頂に到着。石がごろごろする広い頂は高山の雰囲気。軽く歩いて 2000m を越えられるので、得た気持ちになります。

篭ノ登山の後ろに浅間山の頭と噴煙が見えました。

お待ちかねの昼食の時間。皆さんから秋の味覚のおいしい果物をたくさんいただきました。

腹が満ちたら空身で北峰にお散歩（湯ノ丸山は二つ峰があります）。南峰に戻り恒例の記念撮影となりましたが、小浜さんのご家族はまだ見えず残念。

山は初心者とのことで心配でしたが、携帯も通じる良い時代。小浜さんはその場でご家族を待つことになり、私たちはもう一つのピーク烏帽子岳を目指しました。鞍部まで一気に急降下。鞍部にはかわい

い実をつけた大きな木が一本たっていて、素敵な自然の休憩でした。ここからは自分の体力と相談し余力のある人たちは烏帽子岳ピストンへ。

烏帽子岳付近は紅葉が始まっていて秋の様相でした。山頂では浅間山が浮き出るように美しく、新潟の山々も見ることができました。鞍部から元の地蔵峠まではなだらかな良い道でした。明るい林はずっと歩いていたいようでした。烏帽子岳から降りる途中にコケモモの実がたくさん実っていて、小口さんが手のひらいっぱい採って私にくださいました。これは後日、小さな鍋で砂糖と煮たらおいしいジャムになりました。ちょうど食パン 1 枚に塗れる分で、山を想い出しながらいただきました。

15 時 30 分に地蔵峠に下山。ここで小浜さんのご家族とお会いできました。烏帽子岳はカットして降りてきたとのこと。軽いハイキングだと思ってきたのでかなりきつかったそうですが、これに懲りずに是非またご参加ください！体が山歩きに慣れたらしめたもの。日常生活では体験できない感動が待っているのですから。

ご参加された皆様、お疲れ様でした。またご一緒できますことを楽しみにしています。

下山口・地蔵峠で、やっと全員集合

■ 第１７回「シニアOBの集い」の報告

松本真理子（8 期）

第 17 回「シニア OB（1 期～8 期）の集い」が、11 月 19 日（土）～20 日（日）にかけて、秋たけなわの奥多摩・国民年金健康保険センター「おくたま路」で開催された。今回の参加者は 55 名。2 日とも小春日和の好天に恵まれ、両日、各々3 コースのワンダリングを楽しむことができた。

19 日；A コース　　川苔山　　リーダー腰塚（3 期）　参加者 15 名

遠路はるばる参加の 8 期上島君を含め 15 名の参加。1～8 期まで、各期 1～3 名とバランスのとれたメンバー構成となった。JR 奥多摩駅から川乗橋までのバス（東日原行き）は、満杯で出発。天気は快晴、風も無くまた登山者も少なく絶好の登山日和。細倉橋までの林道沿いは、紅葉・黄葉が今が盛り。

細倉橋からの川乗谷沿いの山道は、滑りやすい岩、下が見える橋等があり、滑った人もあったようだが怪我も無く、途中の小、中の滝を見ながら、百尋の滝へ。百尋の滝はこの時期としては水量も多く、幅も広い立派な滝である。百尋の滝から、途中、昼食を挟み、休憩をとりながらゆっくり川苔山山頂へ。

山頂では、富士山をはじめ、大岳山、雲取山、丹沢の山等、ほぼ 360 度の大展望を楽しんだ。

しかし、気温が低く早々に下山。下りは、暗い杉林の中の急坂と、山ひだを沿う平坦な道に、不平の声が出かかったころ、祠に着く。祠から鳩ノ巣駅まで急ぎ下り、電車に飛び乗った。

B コース　　大岳山　　リーダー嘉納（1 期）　参加者　7 名

ケーブル山頂駅 10 時 35 分出発。 岩石園分岐まではほとんど平坦な広い道を紅葉を愛でつつおしゃべ りしつつ歩く。天気が良く歩いていると汗が出てくる。やがて登りにかかり、鎖のかかる岩場の道を越えると大岳山荘に 12 時 15 分に到着した。見晴台で食事。展望は良く、大山、丹沢連峰、大室山、御正体山、富士山とずらり並んで壮観であった。

12 時 45 分に出発して大岳山頂を目指す。最後は露岩をよじ登り、25 分で全員登頂。鋸山や御前山を眺めて道を引き返す。

順調に進んだので時間が余ってきた。そこで岩石園の方を廻って返ることにした。谷沿いの道で、秋の風情が強く感じられるすばらしい寄り道であった。

ケーブル山頂駅には 15 時 40 分に着いた。石神前駅に着いてみると川乗コースの

人たちと同じ電車であった。

C コース　　奥多摩むかしみち　　リーダー小林（7 期）　参加者　14 名

19 日快晴の朝、早い方は 10 時前に、他のメンバーも定刻 11：00 のバス出発までには全員集合。参加者 14 名全員無事乗車。バスは臨時バスが何台も出ているにも拘わらず、超満員で途中乗車は出来ないほど。

15 分ほどで無事水根バス停に着き、トイレ休憩の後 11：30 出発。最初は舗装道路の登りがしばし続くが、やがて奥多摩湖を眼下に水根集落の中の本日の最高点に達し、その後集落を離れ山道を急下降。途中本来の昔道が崩落したため迂回路へ。ダム建設の為の小河内鉄道のトンネルを通り抜け、中山バス停で国道を横断、その後再び本来の昔道に合流した。

眼下に多摩川の清流を見下ろす「奥多摩むかし道植樹広場」で 12：10 昼食。記念撮影後 12：50 出発し、紅葉の渓流沿いに快適な道を下り耳神様、弁慶の腕抜き岩等をすぎ、白髭神社で再度記念撮影。

急坂を上り詰めたところにある昔大八車馬力の休み場所だったという槐木（さいかちぎ）で往時を偲び、3 時過ぎに全員無事奥多摩駅に着き宿舎の「おくたま路」へ向かった。天候に恵まれ全員楽しい一日を過ごせたと思う。

「YWV シニア OB の集い」　　司会　服部（7 期）小林（7 期）　参加者 55 名

昼間のワンダリングの汗を温泉で流した後、宴会場「雲取」にて 18 時開始。

会はまず、11 月 17 日に亡くなられた初代 OB 会長松本氏（1 期）へ黙祷をささげる。その後、嘉納会長から 2007 年の 50 周年記念事業に関しての話があり、7 期橋本明美さんの乾杯の音頭でスタート。

この「集い」への 10 回参加者（3 名）、シニア月例山行に 30 回参加者（7 名）、50 回参加者（9 名）と表彰が続き、其々に記念品が贈られた。

続いて各期紹介、1 期藤岡さんの前立腺癌を乗り越えた話、6 期菅谷さんの闘病状況（娘さんからのメッセージが公開、参加者もメッセージを書いた）、7 期八島君の癌との戦いに打ち克ちつつある話しなどが印象に残った。

シニアの中では一番若い 8 期もみんな還暦を過ぎ、癌、認知症、高血圧、糖尿病、鳥インフルエンザなどは避けられない年齢になので、それらといかにうまく付き合うかが重要になってきた。

スライドで見るシニアの活動報告は、今年の月例山行の参加者数、参加率などの統計的データとその折々の写真を弁士塚原月例委員長によって軽妙洒脱に紹介され、楽しいものだった。

最後はいつもの「みはるかす」合唱と池原君（8 期）発声によるエール交換、そして恒例の全員記念撮影で一次会は終了。その後の二次会は 22 時半まで和やかに続き、さらに零時をまわる頃まで飲み続けたグループもあった。

翌日は雲一つない青空の下、鷹ノ巣山、棒ノ折山、大多摩ウォーキング、直帰の 4 コースに分かれ、それぞれのルートで紅葉を楽しみながら帰路についた。また、元気で会いましょうと。

林（7 期）記

20 日；A コース　　鷹ノ巣山　　リーダー吉野（2 期）　　参加者　12 名

鷹ノ巣山隊は車 5 台で宿舎を出発。途中、大麦代に 2 台デポして峰谷奥へ。登山口の駐車場はガラ空き。9 時 40 分出発、最初は急な登りだがあとはなだらかな樹林帯の尾根通し、ヒノキからカラマツ、そしてブナ、ミズナラと林相は移り、落葉を踏みながらの尾根道は実に快適。立派な避難小屋のある縦走路にでると、鷹ノ巣山までは急な登りで 30 分、背後に雲取山も見えてきた。

頂上着 12：10、南面が開けていて、大岳山、御前山、三頭山は目の前。富士山や南アルプス、八ヶ岳、大菩薩、丹沢等を遠く近くに眺めながら、おいしいお弁当でゆっくり過ごした。

帰路は明るい榧（かや）の木尾根をのんびり下り 15：40 倉戸口に下山、車を回収に。下り標高差 1,200m のロングコースで、翌日は太ももの筋肉痛に悩まされたが、充実した 1 日であった。

B コース　　棒ノ折山　　リーダー岡田（6 期）　　参加者　11 名

清東橋までバスで入る。奥茶屋でワサビを購入してからワサビ田の中を 30 分。この後、「棒」のごとき直登が続く。山名の由来はこれか？なんと階段の多いことか。今年も北アに行った某夫妻いわく「今年登った山で一番きつい」と。早坂旦那は二日酔いと格闘。しかし、1 時間あまりで明るい超展望の山頂に到着。新宿のビルの反射がまぶしい。

幕の内弁当を楽しんだ後、名栗湖めざして、白石沢を下る。白孔雀の瀧、藤懸の瀧など巨大な岩場を上へ下へとすり抜け、渡渉を繰り返しながら黄葉の中をスリルの 2 時間。降り立った湖畔の紅葉はすばらしい。

嘉納会長は、GPS の性能確認に疑念を抱く「湖畔なのに何故？」。そこには、さわらびの湯が待っていたのだった。久しぶりのゆったりワンダリング。一同満足ゆえめでたし。

C コース　　大多摩ウォーキング　　リーダー谷上（4 期）　　参加者　19 名

紅葉シーズン真っ盛り、快晴の日曜日ということで、いつもは静かな多摩川の渓谷も大勢の人で混雑していた。われわれ 19 名の団体もその混雑の原因だが。

古里駅前のセブンイレブンで準備を整えいざ出発。コース前半の古里から鳩ノ巣までは木漏れ日を浴びながら山道を歩く静かなコース。最後の長い登り道では一汗かく。

鳩ノ巣小橋を見上げながら河原で一休み、と思ったのだが、まだ朝早いため深い渓谷には日の光が差さず寒いので、早々に歩き始める。鳩ノ巣から白丸までのコース後半は、紅葉を楽しみながら渓谷に沿って歩く快適な道。白丸ダムでは魚道を見学し、魚道を出たところで偶然にも見つけた陽だまりの、見事に黄葉した銀杏の木の下で楽しく昼食。

われわれ 19 名のメンバーは健脚揃いだったため予定どおり数馬の切り通しにも寄って、予定より一本はやい電車に乗車できた。まだ 1 時過ぎだというのに電車はほぼ満席。早い電車に乗れてすわれた。すばらしい天気、すばらしい紅葉、すばらしいメンバーで歩いたすばらしいコースだった。

■ 自由投稿　　８期の集い

綾部　和子（8 期）

今年は戦後 60 年となり、私たち 8 期の多くは還暦を迎えました。まだ現役で活躍している人、すでに第 2 の人生を送っている人と様々ですが、久々に 11 月 13 日（日）14 時から崎陽軒本店にて『8 期の集い』をもちました。

出席者は長崎から上島さん、千葉から小谷さん、東京から平沼さん、畑中さん、小出さん、須藤さん、佐木さん、横須賀の田中さん、溝田さん、横浜の早坂さん夫妻、池原さん、松本さん、高橋さん、 藤沢の綾部で総数 15 名となりました（現在 8 期は 21 名）。

出席者のうち早坂宗さんは、富美子さんの内助の功もあってこの夏に 100 名山を完登されましたので、出席者全員でお祝いをしました。その際に詳細な完登記録を配布していただきましたが、できればあやかりたいネ・・・の声もあがりました。

美味しい中華料理とフリードリンクをいただきながら、一人ひとり近況報告をしあい、お互いの歩んできた人生を振り返ることができました。

第 2 の人生でありながら現役時代よりもハードな仕事に就いている人、孫からお父さんと呼ばれていて（孫の父親はパパ）、デパートなどで買い物をしているときに大きい声で「お父さん！」と孫から呼ばれるとまわりの人からじっと見られてしまい、呼ばれ方を変えようとしている人、定年間近で大変忙しい人、ゆとりある生活になり体力作りに励んでいる人、親の介護で大変な人、介護から開放された人、電車の中で席を譲られ素直に座ることができるようになった人（本心は？）、OB 山行皆勤賞のみならず北アルプス等縦走や海外旅行にも頻繁に出かけている元気な人、孫の世話や菜園・花壇の手入れ等仕事をやめても忙しい人等々2 時間があっという間に過ぎてしまいました。

さらに場所をそごう 10Ｆに変え、またまた楽しい会話が続行しました。なんと 40 年前の今頃私たち 8 期全員は次期リーダーになるためのミーテングを何回も行い、活動方針等の作成にかかっていたのですが、その時の記録が保存されていて、その記録を回し読みしながら現役時代の話しで盛り上がりました。「ワンゲルとは？」「サークルと同好会の違い」等々熱く語りあった頃のことが鮮やかによみがえってきたひとときでした。シニア OB の皆様、あのころの部費がいくらだったか覚えらっしゃいますか？

お互いに縁があっての出会いから 41 年がたちましたが共に過ごしてきた 4 年間の思い出は大切な宝物のように思えます。

これからはみんなで集まる時間を大事にしていこうと約束をして『8 期の会』を閉じました。

■ 自 由 投 稿　　日本百名山を完登して

早坂　宗（8 期）

日本百名山・登山記録　　平成 17 年 8 月現在

何度も登っている山は、最近の日付、妻同行は＊印、妻単独は＊＊印

「北海道」

１	利尻岳	67 年 8 月 27 日	２	羅臼岳	67 年 9 月 5 日
３	斜里岳	01 年 8 月 7 日＊	４	阿寒岳	01 年 8 月 6 日＊（雌阿寒岳）
５	大雪山	67 年 8 月 29 日（旭岳）	６	トムラウシ	67 年 8 月 31 日
７	十勝岳	67 年 9 月 2 日	８	幌尻岳	02 年 8 月 31 日
９	後方羊蹄山	03 年 7 月 7 日			

「東北」

１０	岩木山	02 年 9 月 22 日	１１	八甲田山	65 年 7 月 31 日＊（八甲田大岳）
１２	八幡平	99 年 8 月 1 日＊	１３	岩手山	68 年 8 月 14 日＊
１４	早池峰山	00 年 10 月 8 日＊	１５	鳥海山	67 年 8 月 1 日
１６	月山	04 年 5 月 15 日＊	１７	朝日岳	67 年 7 月 28 日（大朝日岳）
１８	蔵王山	02 年 5 月 5 日（熊野岳）	１９	飯豊山	05 年 8 月 6 日（飯豊本山・大日岳）
２０	吾妻山	02 年 5 月 4 日＊（西吾妻山・東吾妻山）			
２１	安達太良山	95 年 5 月 19 日＊＊	２２	磐梯山	04 年 8 月 28 日
２３	会津駒ヶ岳	05 年 6 月 19 日＊＊	２４	那須岳	04 年 9 月 26 日＊（茶臼岳・三本槍ヶ岳）

「上信越」

２５	魚沼駒ヶ岳	67 年 7 月 22 日＊	２６	平ヶ岳	04 年 8 月 21 日＊＊
２７	巻機山	03 年 10 月 5 日＊	２８	燧岳	00 年 10 月 22 日＊
２９	至仏山	95 年 9 月 15 日	３０	谷川岳	02 年 8 月 3 日
３１	雨飾山	00 年 9 月 16 日＊	３２	苗場山	93 年 10 月 9 日
３３	妙高山	66 年 8 月 5 日＊＊	３４	火打山	66 年 8 月 6 日＊＊
３５	高妻山	03 年 9 月 14 日＊			

「北関東」

３６	男体山	66 年 5 月 18 日＊	３７	奥白根山	02 年 9 月 15 日＊
３８	皇海山	02 年 9 月 16 日＊	３９	武尊山	03 年 10 月 26 日＊
４０	赤城山	95 年 5 月 3 日（黒檜山）	４１	草津白根山	02 年 10 月 27 日＊＊
４２	四阿山	05 年 3 月 13 日＊	４３	浅間山	87 年 5 月 17 日＊（黒斑山）
４４	筑波山	03 年 2 月 22 日＊			

「秩父・多摩・南関東」

４５　両神山　98 年 6 月 13 日　　４６　雲取山　04 年 1 月 11 日＊
４７　甲武信岳　03 年 11 月 2 日＊　　４８　金峰山　65 年 5 月 4 日＊＊
４９　瑞牆山　99 年 8 月 28 日＊＊　　５０　大菩薩嶺　97 年 9 月 20 日＊＊
５１　丹沢山　66 年 7 月 10 日　　５２　富士山　92 年 8 月 23 日＊＊
５３　天城山　96 年 12 月 1 日

「北アルプス」

５４　白馬岳　65 年 8 月 13 日　　５５　五竜岳　65 年 8 月 15 日
５６　鹿島槍　65 年 8 月 16 日　　５７　剣岳　68 年 10 月 11 日＊
５８　立山　02 年 9 月 4 日＊　　５９　薬師岳　02 年 9 月 29 日＊
６０　黒部五郎岳　03 年 8 月 3 日＊　　６１　黒岳　03 年 8 月 1 日＊
６２　鷲羽岳　03 年 8 月 1 日＊　　６３　槍ヶ岳　04 年 7 月 26 日＊
６４　穂高岳　00 年 8 月 30 日＊(奥穂高岳)　　６５　常念岳　69 年 10 月 12 日＊
６６　笠ヶ岳　03 年 8 月 4 日＊　　６７　焼岳　01 年 10 月 7 日＊
６８　乗鞍岳　00 年 8 月 31 日＊

「八ヶ岳・中央アルプス」

６９　御嶽　94 年 6 月 11 日　　７０　美ヶ原　94 年 8 月 10 日＊
７１　霧ヶ峰　86 年 6 月 1 日＊（車山）　　７２　蓼科山　04 年 10 月 16 日＊＊
７３　八ヶ岳　04 年 10 月 11 日＊（赤岳）　　７４　木曾駒ヶ岳　65 年 10 月 17 日
７５　空木岳　02 年 8 月 17 日　　７６　恵那山　02 年 10 月 14 日＊

「南アルプス」

７７　甲斐駒ヶ岳　66 年 9 月 5 日＊＊　　７８　仙丈岳　66 年 9 月 4 日＊＊
７９　鳳凰山　03 年 10 月 13 日＊（観音岳）　　８０　北岳　05 年 7 月 17 日
８１　間ノ岳　05 年 7 月 18 日　　８２　塩見岳　66 年 9 月 1 日
８３　悪沢岳　66 年 8 月 29 日　　８４　赤石岳　66 年 8 月 28 日
８５　聖岳　66 年 8 月 27 日　　８６　光岳　66 年 8 月 25 日

「近畿・北陸・中四国」

８７　白山　99 年 8 月 17 日＊（御前峰）　　８８　荒島岳　99 年 8 月 18 日
８９　伊吹山　03 年 7 月 21 日＊　　９０　大台ヶ原（日出岳）　03 年 7 月 22 日＊
９１　大峰山　04 年 5 月 14 日（八経ヶ岳）　　９２　大山　03 年 6 月 7 日
９３　剣山　04 年 5 月 3 日＊　　９４　石鎚山　04 年 5 月 2 日＊

「九州」

９５　九重山　69 年 5 月 4 日（久住山・中岳）　　９６　祖母山　69 年 11 月 8 日
９７　阿蘇山　69 年 7 月 8 日（高岳）　　９８　霧島山　70 年 4 月 22 日＊（韓国岳・高千穂峰）
９９　開聞岳　04 年 3 月 6 日　　１００　宮ノ浦岳　03 年４月１３日

日本百名山を完登して

早坂　宗（８期）

もの心ついた頃から山が好きだった。「岩手の富士をまなかいに、起き伏す山の深緑」「春すずらんの香（かに）匂い、秋は紅葉の色映えて、自然の恵み豊かなり」―中学校歌の一節であるが、学校はもうない。今は十和田八幡平国立公園の一角をなしているが、昭和 44 年に閉山された松尾鉱山」（硫黄）（現在八幡平市）がわが生まれ故郷であり、茶臼岳（1,578m）の山裾に広がる標高 1,000m の山の上での生活である。

春のタケノコ、ワラビ、タラノメ、秋のブドウ、アケビ、キノコ採りとふんだんに山の幸を楽しみ、そして家の高さ以上に雪が降り積もる長い冬はスキーに興じた。ずっと山に抱かれていた気がする。熊にも 2 度出会った。バッタリ出会ってとても死んだふりなどできるものではない。半分腰をぬかしつつ、意識だけは一目散に逃げた記憶がある。

「南部富士」といわれる**岩手山**（コマクサの群落は素晴らしい）をはじめ、姫神山、**早池峰山**（ハヤチネウスユキソウは日本のエーデルワイス）、秋田駒ヶ岳、乳頭山などをよく登った。『故郷の山に向かいて言うことなし、故郷の山はありがたきかな（啄木）』である。

中学は卓球部、高校はバスケット部だったのに、大学では思い返したようにワンダーフォーゲル部に入部した。年間 80－100 日近くは山に浸っていた。ゼミのアルバム集合写真も欠けることが多く、気のきいたゼミテンが「山岳視察中」ということで別掲してくれた。よく落伍せず卒業できたものだと思う。

大学 1 年（1964 年）10 月 10 日の東京オリンピック開会式の模様も南アルプス**仙丈岳**のカールで聴いた。八丈島に遊んだり、後立山連峰（**白馬岳・五竜岳・鹿島槍ヶ岳**）を縦走したり、北海道の山野を放浪（当時はカニ族が流行り、北海道拓殖銀行旭川支店勤務の秋山先輩(6 期)の寮に転がり込んだりした。**利尻岳**・芦別岳・**大雪山**・**トムラウシ**・**十勝岳**などを登った）したりもした。

特に思い出深いのは、3 年の夏、下村先輩（7 期）を顧問格に 2 週間かけて静岡県の金谷駅から長野県の伊那北駅に抜けた南アルプスの縦走（**光岳・聖岳・赤石岳・悪沢岳・塩見岳・間ノ岳・北岳・仙丈岳・甲斐駒ヶ岳**）である。軌道歩きはトンネルから降る山ヒルの群れに悩まされ、避けるものの何一つない上河内岳の稜線では地面が光り爆発するのではないかと思うほどの落雷、**北岳**ではテントが飛ばされそうな激烈な台風にキスリングに座り必死にポールを支えたりと試練の時もあった。途中三伏峠にサポート歩荷（ぼっか）してもらって、むしゃぶりついたスイカの瑞々しい味が忘れられない。むくんだ体の隅々まで生き返った思いがした。**赤石岳**のケルンに埋めたペナントは今も残っているだろうか。

68 年、跡部先輩（4 期）の薦めで安田信託銀行に入社、最初の勤務が福岡支店だったので、九州の山、**九重山**や**阿蘇山**、**祖母山**、傾山、由布岳などに支店の仲間と楽しく遊んだ。スキーは滑ったことのない人を引率し、西鉄バスで鳥取の**大山**に行った。結婚前の妻（東京勤務だった）とのデートも殆ど山だった。紅葉に染まる**剣岳**（早月尾根を登った。仙人池から眺めた裏剣の三段染は忘れられない）や**常念岳**を歩いた。新婚旅行では竜馬に倣い**霧島**連峰（韓国岳・高千穂峰）を縦走した。

東京へ転勤後は仕事も忙しくなり、子供も小さく、本格的な登山は暫く休み、**浅間山**（黒斑山）や**霧ヶ峰**、**那須岳**、**丹沢**、箱根、天子山塊（ワラビ採り）など近くの山に子連れで遊ぶのが精一杯で、ままならぬ日々が長く続いた。

復活はふとしたキッカケ、もう 13 年程前になるが、大森支店長の時である。
店の飲み会で旅の話が盛り上がり、勢い高じて皆で「**富士山**登山」を敢行しようということになった。

92年8月23日（土）、24日（日）、天候は晴れ、うまい具合に男女8名ずつ計16名の希望者が集まった。出で立ちは様々、5合目までマイカー、7合目の山小屋でカレーを食べて仮眠、混み合って寝苦しいこともあり、また満天の星空のあまりの美しさに誘われて、早くも22時過ぎにはヘッドランプで出発、一路頂上を目指した。9合目からはフラつく人も出て、高山病に罹った女性1人を下の小屋に残し、あとは携帯「酸素君」にも助けられながら、トップからビリまで約1時間の時間差をもって何とか無事15人が頂上に立った。歯の根も合わぬ寒さに、着膨れ震えながらも、ご来迎と眺望の素晴らしさに一同大感動、涙を流す人が多かった。あの感激は今でも語り草である。この時、私自身あらためて登山の醍醐味を体感し、登山意欲が漲った。

以来、年に２，３回のペースで会社の仲間たちと「山と温泉ツアー」（必ず「飲み会」つき）を楽しんだ。いろんな傑作なエピソードも生まれた。

『日本百名山』を意識し始めたのも丁度この頃である。深田久弥の本が新潮社から発売されたのは昭和39年（64年）と旧いらしく、その昔読んだ記憶はあるが、暫くは縁がなく、会社の仲間と再び山に行くようになり、「さあ！次はどこにしよう？」と山を選ぶに当って、チェックしてみたわけである。

昔の山日記、手帳、地図、写真などを手がかりに、数えてみたら、富士山を含め、これまで私が登った百名山は45座と、まだ半分にも達していなかった。

深田久弥が、自分の足で頂上を踏み、自分の眼で山を選んで『日本百名山』（「山と高原」に連載）を完結させたのが昭和38年（63年）、丁度彼が還暦を迎えた年であるらしい。

「還暦を迎える年までなら、私自身はまだ10年以上もある。仕事をしながらでも『百名山完登』という目標を掲げることは何とか可能かな」との漠たる思いを抱いた。早速、皆で気軽に安全に登れる百名山を中心に選び、順次登りだした。因みに会社の仲間（時々は取引先の飛び入り参加もあり）と登った山々は、93年―99年の間、**苗場山、御嶽山、磐梯山、赤城山、蓼科山、安達太良山、至仏山、天城山、**茅ヶ岳、金時山、**大菩薩嶺、**子持山、**両神山**、鹿俣山、**瑞牆山**などであり、一つひとつに思い出がある。随分沢山の人と登った。

一方で、この間もゴールデンウイークや夏季休暇を活用して、年2―3回は、夫婦で百名山を訪ねて遠方まで足を伸ばした。2000年以降は山での宿泊登山が大半となり、専ら夫婦登山が主流となった。費用や難度の点から、北海道（日高・**幌尻岳**）や屋久島（**宮ノ浦岳**）などは単独で行くことになった。

夫婦登山のハイライトは、03年7月31日―8月6日の1週間、晴天に恵まれた北アルプス最奥の名山、烏帽子岳・野口五郎岳・**黒岳（水晶岳）・鷲羽岳**・雲ノ平・**黒部五郎岳**・三俣蓮華岳・双六岳・**笠ヶ岳**の縦走である。久しぶりに大きな荷を背負っての長旅だけに達成感は一入であった。

この2―3年は、季節を問わず（冬は専ら富士山の周りの山を中心に）、月平均2回ペースで登山を続けている。鳥取の**大山**では雷に打たれそうになったり、北アルプス・南岳の下りでは転倒滑落して頭から出血したりと多少危ういこともあった。でも何とか、還暦を迎えた今年8月の「**飯豊山**」（8期小出君同行）で宿願の百名山を完登することができた。

私は今「みずほ信不動産販売（株）」に勤務しているが、この業界にも「山の会」があり、毎月最低1回は山行計画がある。誘われて今年4月の「御座山（おぐらやま）」、6月の「**会津駒ヶ岳**」、10月の「**雨飾山**」に参加したが、いろんな人との出会いや語らいが楽しく、当分の間は続けられそうだ。

山で知り合い、意気投合して下界で付き合う仲間も増える。特に単独で「ツアー」参加した場合などに多い。

今、山は中高年ではなく、正真正銘の高齢者とオバサンで溢れかえっている。

それだけに山岳事故も多いのだが、この勢いは当分止まらないだろう。

今年 6 月の北海道「ニペソツ山・石狩岳」ツアー参加の時の最高齢は、50 年山登りを続けているという 70 歳。彼曰く、「皆から百名山は終わったかとよく聞かれるが、私は百名山志向などもともとない。きっと終わっていると思うが、百名山ブームは山が騒がしく汚くなり、甚だ迷惑だ。山に罪はないが、私は深田久弥の人間性（注）が嫌いだ」云々。

（注：深田久弥の人となりに関心のある方には、角川文庫「百名山の人（深田久弥伝）」田澤拓也著がおすすめである）

7 月の南アルプス「白峰三山（**北岳・間ノ岳**・農鳥岳）」ツアーの最高齢も 70 歳、彼曰く、「還暦を迎えて始めた山登りだが、こんなに素晴らしいものとは知らなかった。どこまでやれるかわからないが、日々鍛錬を怠らず息長く楽しみたい」云々。

そして極めつけが今回８月の「**飯豊山**」ツアーの最高齢、何と 80 歳。彼曰く「子育てを終え 64 歳からウインドサーフィンを始め、69 歳から百名山を目指し始めた。今年だけで 15 座目。あと 2－３年で必ず完登する。目標を持って生きねば張りがない。あなた達は若くて羨ましいよ」云々。

いずれの先輩方も意気軒昂で自信に溢れている。私も大いに見習い、いろんな仲間と好きな山登りを続けたいと思う。

■ 総会葉書より近況報告

佐藤　文雄（1 期）　要望；創部 50 周年に向って、充実した人生を送ろう。ワンゲル部は人生の最大の財産となる。

近況；平々凡々。45 年間の企業戦士から解放され、できれば 45 年間元気で遊びたい。ボランティアの真似事で一遇を照らす、人のお役に立ちたい、と過ごしている。

塚原伸一郎（2 期）　月一回のシニア OB 月例山行と年一回のシニア OB の集いを軸に YWV 活動に参加しています。

北見美智子（2 期）　OB 会報で皆様の様子を知るのは、楽しみのひとつです。

三神　廣臣（3 期）　旅行、ゴルフ、観劇等、毎日楽しくやっています。

井上　　肇（3 期）　久しぶりに富山に行きました。駅の近くの枡天という小料理屋に寄りました。マスターは昭和 12 年生まれとのこと。ワンゲル 1 期生と同年代ですね。マスターの　キャッチフレーズは、「山が好き、歌が好き」今でも山に登っては、山の歌を歌っているとのこと。店で山の歌をきかせてもらい、懐かしい山の歌を一緒に歌いました。

江崎　伴雄（3 期）　満 65 才になりましたが、まだ今までと同じ会社で週 3 日勤務し、主に他人の訳の修正を行っています。山歩きはワンゲルシニア OB 会の月例山行に年 3,4 回参加し、個人的には家内と年 2,3 回歩いています。

平林　　茂（3 期）　今年は 2 月屋久島・5 月宮古島・7 月礼文・利尻島と妻と二人で島旅を楽しんでいます。徳之島、壱岐・対馬、隠岐、佐渡島、奥尻島等々へ行けたらいいなぁ～と思っています。

菅谷　光雄（6期）　闘病生活に入って1年以上経ちました。50周年記念諸活動の頃までには何とか立ち上がりたいと思っていますが、どうなることやら…。OB会もそれなりに年代が上がりましたから自然界の荒波をかぶらざるをえませんが、月例に出席している人としてない人では有意差ありという結果が出るのではありませんか!!

坪　亜起子（7期）　退職したら山にも行けると思っていましたが、母の具合があまり良くなく、今のところ出歩くことを控えています。またいつか、皆様とハイキングに行けることを楽しみにしています。

池原　盛彦（8期）　OB会にもう少し協力できればと思いつつ何やかやと忙しくてまったく手が出まん。せめて小屋のメンテを進めさせてもらいます。

田中　　稔（8期）　シニアOB月例山行では8期幹事で偵察行に行ったり、本番山行に参加したりで又、山が身近になっております。

武藤　直子（8期）　来年3月で37年間の教員生活にピリオドをうちます。時間に余裕ができたらあれもしたいこれもしたいと思っておりますが、どうなりますか…。

綾部　和子（8期）　退職して1年半、引越して1年が経ちました。生活は様変わりし、忙しさの中味がすっかり変わりましたが、精神的にはゆったりと過ごせるようになりました。シニアOB山行にも毎回ではありませんが参加できるようになりました。お世話になった先輩の方々と、おしゃべりをしながらの山歩きができるとは現役（ワンゲル）の頃思ってもいなかったことです。幸せなひとときと思っています。

鈴木弥栄男（9期）　海外赴任地ポルトガルから2004年末に帰任致しました。約5年半の海外生活でした。仕事の合間欧州各国を訪ね文化を吸収してきました。

山本　陽一（10期）　7月に徳島県阿南市に出張の帰り剣山に登ってきました。９月に転付峠～二軒小屋～蝙蝠岳～塩見岳～三伏峠～鹿塩のコースを歩きました。３０年振りの南アルプス、15年振りの3000m峰でした。

丸山　英明（10期）　昨年暮れに、35年振りに10期が集まりました。しかし、佐藤一祥と武重孝雄の所在がつかめません。ご存知の方はお知らせ下さい。

鈴木　道夫（14期）　9月3日～8日まで四国を夫婦で旅していました。松山には7日に入って道後温泉に宿をとり、早朝に有名な本館に入ってきました。頂いたお茶やお煎餅もおいしかった。8日に松山観光港から高速船で門司に向かいました。家内の実家は北九州市ですから、親に挨拶もしてきました。　昨年、永年勤続30年となり会社から休暇と特別金がでたので、夫婦にとって久し振りの長い旅でした。岡山城・高知城・宇和島城・松山城と城めぐりに、岡山・高知・松山の路面電車にもたっぷり乗れて旦那は大満足でした。四国は平野がすくなくて、こんもりした山がたくさんあり、驚きました。とくに土佐は山ばかりで、近代産業の立地が難しいなあ、などと新たな発見もおおかったです。宇和島のじゃこてんにビールで昼食にした日もありました。娘達の就職やアパート探しに引っ越しやら、実家の老

親の介護問題や子の無い叔父夫婦のガン手術の立会いやフォローなど、今年はなにやら忙しいです。

小泉　啓治（15期）　当方は、横浜市の職員。ワンゲルのOBもたくさんいますので、ひょんなところで出会い、昔話に花をさかせることがあります。これからも、会報等をたのしみにしております。

西浦　章予（15期）　教育現場は年々多忙になり…我が子も大学・高校入試と2人の受験生を抱え…少々疲れ気味。夏の旅で久しぶりに信州に行き、いつでも見られる山々に心なごまされてきました。しばらく信州にはまりそうです!!あと少し…ファイト、山に行きたいと渇望しています。

葛窪真紀子（17期）　先日、同期の穴山（長谷川）さんと苗名小屋へ行ってきました。2Fの居住性がグーっとアップして大工仕事をしてくださった方々に感謝です。まわりの森には山ぶどうがたわわに実りありがたくいただきました。

長谷川三津子（17期）　28年ぶりに（卒業以来初めて!!）山小屋に行ってみました。2階の床がピカピカでキレイになっているのには驚きました。

渡部　　孝（18期）　人生色々で大変ごぶさたしました。春には多くの方よりご支援いただきありがとうございました。昨年からサラリーマンに復帰し、東京で単身赴任しています。

笛木　久栄（19期）　夏に久しぶりに上高地に行ってきました。台風も一緒だったので徳本峠小屋でゆっくりして、蝶ヶ岳はあきらめました。まさか梅雨明け10日のこの時期に台風なんて…。静かな上高地でした。

小松　真弓（19期）　卒業以来勤務した横浜を離れ、4月から藤沢の小学校の教員として勤務しています。OB会報のなつかしい先輩方の活躍をたのしみにしております。

石井　啓介（19期）　今年こそは山歩きを再開しようと新年に決意しながら、一度も山に入らずに年末を迎えてしまいそうです。来年こそはとおもいつつ。ところで、どなたかＳＵＢＡＲＵ車購入を考えている方いましたらご一報下さい。４ＷＤで山道、雪道には最適です。

石井　　忍（19期）　日本に帰国して１年数ヶ月がたち、埼玉の地が心の拠り所となりつつあります。子育ても終わり、夫と二人の時間を楽しんでいます。そろそろ山へと思いながらも体力への不安が足を遠のかせています。日本アルプスが恋しいです。スバル車に興味のある方、ぜひご連絡ください。

伊藤　忠彦（23期）　今でも年に数回ですが山登りを楽しんでます。個人や会社の先輩との日帰り山行が主だが、年に１回は家族で小屋泊まり山行に出かけている。子供は中１と小４の男の子が二人で、長男は母親よりも身長が大きくなって、歩荷力も期待できそう？今年は北アの上高地～蝶～常念～豊科を計画した。3泊4日の定番コースだが、我が家的には本格的縦走計画だ。早朝の新宿発ＳＰあづさで松本へ。松本から直通バスで上高地へ。相互通行だった釜トンネルは立派な新しい２車線トンネルになっている。上高地バスターミナルは相変わらずで、トイレはチップ制と

いう名の有料だ。河童橋で自宅から持っていったオニギリを食べ、今日の宿泊地の徳沢までのんびり歩く。岩壁を目指す重装備のクライマーから手ぶらのハイカーまで、これほど荷物に差のある人々がすれ違う登山道は他に無いだろう。

2 日目、徳沢から樹林の長塀尾根をひたすら登る。長塀山で穂高方面の展望が開けると学生時代に買った AP ガイドには書いてあったが、樹木大きくなったのか展望は全くない。情報は新しい方がよい。昼前に蝶ヶ岳ヒュッテに到着し、気合を入れてスパゲッティカルボナーラを作る。妻子には大好評のようだった。午後の一時を槍穂の大展望をバックに気ままに過ごす。天気予報が変わり晴天も今日までとのことだった。夕方から雨になり夜中は猛烈な雷雨になった。3 日目、朝になっても雨は降り続いていた。風が強く視界も 50m 程度しかない。停滞かエスケープ下山か？家族登山の鉄則は余裕をもって無理はしない方針なので下山とした。残念ながら縦走は叶わなかったが、コースタイムどおりで歩けたことから、年々脚力が上がる子供達の成長を実感できた。来年からはもっと歩荷させよう（笑）。写真は最終下山地でのもの。笑顔は風雨の中を歩ききった満足感からか？

永田　　武（25 期）　この 4 月にタイから帰国して早や半年となりますがやっとリハビリを終え speed の速い日本の生活に慣れました。

竹内　和俊（25 期）　今年 4 月より小学校現場に戻り、森林を教材とした環境教育の実践研究を続けています。

松田　哲治（31 期）　混迷の教育現場で、子供達と自分自身を見失うことのないよう、日々奮戦中。小屋の件、何もお手伝いできずいつも申し訳なく思っています。（共に DIY したい気持ちはあるのですが忙殺状態にある勤務の現実を前に、全く足を運べずにいます。）

Penelope Ann Pryor（36 期）　2007 年は YWVOB 50 周年記念になりますね。ぜひそのために日本に行くつもりです。ところで私は去年ネパールで山登りをしてきました。4,500m まで登りました。50 周年の行事でネパールの山登りはどうですか。Mera Peak という 6,476m の山があり、だいたい普通の体力がある人は登ることができます。私が去年一緒に登ったガイド達が結構良かったです。YWVOB の方で興味がありましたら e-mail<penny@investmenttechnology.com.au>を下さい。5 人以上集まれば実施したいと思います。（編注　カトマンズ発着で 17 日間、1,445US$のツアースケジュールがついていましたが割愛します。興味のある方は 36 期ペニー penny@investmenttechnology.com.au または渡邊<tac_tacsen@yahoo.co.jp>まで。）

堀越　壮平（37 期）　同期には、連絡しましたが、2005 年 5 月に結婚しました。

後藤　美穂（39 期）　4 月に女の子を出産し、現在育児中です。

■ おねがい（創立５０周年記念事業にむけて）

本棚の奥や戸棚の隅、物置の中などにワンゲル活動を写した写真がねむっていませんか。
今、創立５０周年記念事業の一環として各期の現役時代の活動記録を集約しています。２０～３０期の記録が特に不足しています。古いアルバムを開いてみて活動の記録がありましたら下記にお送り下さい。

〒176-0025　東京都練馬区中村南　1－33－23－105　嘉納秀明
E-mail　kanoh@isc.meiji.ac.jp

■ 2006 年OB山行予定

OB 山行委員長　小野恵美子（34 期）

年度の区切とは異なりますが、2006 年に予定している OB 山行のお知らせをいたします。日程・行き先について、勝手ながら OB 山行委員の独断で決めさせていただきました。詳細は会報と ML でご案内いたしますが、まずはスケジュールをあけていただき、お一人でも多くの方にご参加いただけましたら幸いです。

●第１６回　檜洞丸

〔日　程〕　2006 年 5 月 13 日（土）
〔行　先〕　檜洞丸（1,601m）
〔地　図〕　昭文社山と高原地図「28 丹沢」
〔集合地〕　西丹沢自然教室（バスまたはマイカーで）

● 第１７回　瑞牆山

〔日　程〕　2006 年 9 月 9 日（土）
〔行　先〕　瑞牆山（2,230.2m）
〔地　図〕　昭文社山と高原地図「26 金峰山・甲武信」
〔集合地〕　韮崎駅（電車）、　瑞牆山荘（マイカー）

ヤマボウシの実

●第１８回　矢倉岳

〔日　程〕　2006 年 12 月 2 日（土）
〔行　先〕　矢倉岳（870m）
〔地　図〕　昭文社山と高原地図「29 箱根」
〔集合地〕　松田駅（電車）、　矢倉沢本村（バスまたはマイカー）

YWVOB 会会報第 31 号
発　　行:横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発　行　日:2005 年 12 月 23 日
発行責任者:嘉納 秀明(1)
編集責任者:編集委員長　下村蓉子(10)
編　　集: 編集委員　松本真理子(8)
編集にご協力いただいた皆様､ありがとうございました。